

樹木治療等事故防止のための基本的事項

樹木治療等事故防止のための 10 カ条

(2004.04.03)

日本樹木医会に所属する樹木医は、同会や同支部の組織活動として、巨樹、古木や各種の貴重木などの樹勢回復を目的とする治療や樹木に関する各種診断調査（以下、「樹木治療等」とよぶ。）を実施しておます。また、組織を離れて個人で実施する場面も多く見られます。

しかし、これらの実施により、不幸にも「事故」が発生し、樹木医側と樹木占有者又は保有者側（以下、「樹木所有者等」とよぶ。）との間に「樹木治療等にかかわる訴訟」につながる事が懸念されます。この場合、樹木医側に不法行為や不履行行為があれば、この事故は、「過誤」と呼ばれ、損害賠償債務などの法的責任が問われることとなります。さらに、事故の発生は、日本樹木医会に所属する樹木医の技術的な信頼度を著しく傷つけることにもつながります。

このような「樹木治療等による事故防止」を進めるために考えられる基本的な 10 カ条の事項を列挙しました。

第 1 条 樹木医は、つねに「危機意識」を持って、「樹木治療等」にあたきましょう。

樹木医が行う「樹木治療等」の行為には、不確定要素が多く潜在し、つねに危険と隣り合わせにある。樹木医はこの危機意識を十分に認識し、「樹木治療等による事故」は、何時、何処にでも起こりうるものであるという「危機意識」をもって「樹木治療等」にあたることが必要である。

第 2 条 樹木医は、「樹木所有者等」を優先した「樹木治療等」を徹底しましょう。

樹木医は、いかなる事態においても「樹木所有者等」を優先した体制で樹木治療等を行うことが不可欠である。質のよい「樹木治療等」は、「樹木所有者等」の希望する「樹木治療等の内容」から始まる。「樹木所有者等」への配慮が欠けたとき、「樹木治療等による事故」が発生しやすいことを認識する必要がある。

第 3 条 樹木医は、「樹木治療等」の行為において、「確認」、「再確認」を徹底しましょう。

樹木医は、「樹木治療等」を行うにあたっては、事前に確認をすることが不可欠である。確認に当たっては、自分一人ではなく、必要があれば複数の樹木医による確認を行い、又、業務の遂行の過程で疑問や理解不可解な事柄があれば、必ず事前にその事項を得意とする樹木医と相談するなど、再確認をし、理解してから業務を遂行することが必要である。すなわち、樹木医一人一人が「根拠のある、当たり前のことをきちんとする」ということの再認識することが大切である。

第 4 条 樹木医は、「樹木治療等」に当たり「樹木所有者等」に対して、円滑な「コミュニケーション」と「インフォームド・コンセント」に配慮しましょう。

樹木医は、「樹木所有者等」に対して十分に配慮し、訴えを謙虚な気持ちで聞き、約束は必ず守るよう心がける。言葉遣いは丁寧で、解りやすく、誠意をもって対応し、「説明と同意」

にあたっては、その内容が十分理解されるよう配慮することが必要である。

第5条 樹木医は、「樹木治療等」の記録を性格かつ丁寧に記載し、チェックを行いましょう。

樹木医は、「樹木治療等」に関する諸記録を記載する。これらの記録は、事故の防止に役立つとともに、万一、事故が発生した場合においても、適切な対処が可能である。記録は正確かつ丁寧に記載する習慣をつけるとともに、他の樹木医のチェックを受け、「樹木治療等」の質の向上につなげることが大切である。

第6条 樹木医は、情報の共有化を図りましょう。

理想的には、日本樹木医会は樹木医が行う「樹木治療等による事故」の情報を、各地区協議会及び支部を通じて組織的に集積し、分析し、再発防止対策を講じるという一連のシステムを構築する必要がある。このためには、事例報告が十分になされる環境づくりが先決である。

第7条 樹木医は、「樹木治療等による事故」防止への組織的、系統的な管理体制を構築しましょう。

理想的には、日本樹木医会は樹木医が行う「樹木治療等による事故」の防止については、樹木医個人の事故防止への取り組みや努力だけに依存するものではなく、人が行う行為である以上、「事故は起こる。」という前提に立ち、樹木医個人、支部、地区協議会及び本部を通じ、組織全体として事故の未然防止や事故からの損害を最小限にいとめるシステム（リスクマネジメント）の整備が必要である。

第8条 樹木医は、「自己の健康管理」と「樹木医間のチームワーク」を図りましょう。

樹木医は、自己の肉体的、精神的状況を客観的に評価し、不調の場合はとくに慎重な態度で従事するよう心がけることが必要である。又、チームで行動する場合は、責任者は、樹木医間のチームワークについても、冷静な評価を行い、行動環境の問題点を明確にして早期に解決策を打ち出すことも重要である。

第9条 樹木医は、「樹木治療等のための技術」の向上に努めましょう。

「樹木所有者等」は全国のどの樹木医にかかっても「一定水準の樹木治療等」を受けたい。これが「樹木所有者等」の心情であろう。つねに、樹木医個人の技術的研鑽は要求される。

又、日本樹木医会は、すみやかに「樹木医の標準となる技術指針」を作成し、「樹木医間の技術的平準化」を図ることが緊急の課題である。

第10条 樹木医は、組織をあげて「樹木治療等による事故防止」に対する意識改革を行いましょう。

良質な「樹木治療等」の提供は、各組織の長老格の姿勢によって大きく影響される。トップの意識改革は勿論、組織をあげて自由に発言し、論議できる環境づくりを図ることが必要である。